

平成 29 年 4 月 6 日

平成 28 年度卒業生アンケート集計結果

大学教育センター教育開発部門

平成 28 年度の「福山大学での学修を振り返るアンケート調査」（以下、「卒業生アンケート」）を学内専用ポータルサイト「ゼルコバ」を利用して平成 29 年 1 月 18 日～3 月 20 日の期間で実施した。

調査項目は、平成 27 年度と同様で、「福山大学での学びを経て、入学前と比べてあなた自身はどのように変化したと思いますか？」という学修による変化（A：知識・技能面 6 項目、B：態度・精神面 9 項目）、「福山大学での学生生活にどれくらい満足していますか？」という学生生活の満足度（9 項目）、および「福山大学での学び全体を通して、あなたの満足度を % で表現すれば、次のどれに当たりますか？」という学修環境の満足度に「あなたは、もう一度福山大学で学ぶ機会が得られるとすれば、何を望みますか、簡単に書いてください（自由記載）」を加えた 24 項目で実施した。卒業生の回答率は 65.9%（対象者 604 名、回答数 398 名）であった。平成 27 年度の回答率 54.2% よりも 10% 以上も上昇した。

【分析結果および所見】

（1）学修による自己の変化に関する解析：知識・技能面

下記の 6 項目について、入学前と比較した自己の変化について調査した。

1. 一般的な教養
2. 日本語の運用能力（表現と理解）
3. 外国語の運用能力（表現と理解）
4. 専門的知識・技能
5. コンピュータを用いた情報処理能力
6. プレゼンテーション能力

（評価段階）

- かなり向上した 少し向上した 変わらない
少し低下した かなり低下した わからない

「専門的知識・技能」で 49.7% (H27 年度は 47.3%) の学生が「かなり向上した」と回答しており最も高い割合であった。続いて、「一般的な教養」39.2% (H27 年度は 39.2%)、「コンピュータを用いた情報処理能力」27.1% (H27 年度は 29.5%) であった。一方、「外国語の運用能力（表現と理解）」で「かなり向上した」と回答したのは、8.5% (H27 年度は 7.5%) で最も低かった。

学修による自己の変化に関する解析（知識・技能面）については、平成 27 年度とほぼ同じ結果であった。専門的な知識や技能、一般教養、情報処理能力、プレゼンテーション能力については、学修効果を実感している学生が多いことが示された。一方、外国語については学修効果を十分に感じていない学生が多いことが示された。レベルナンバーリング制が導入されるなど、外国語教育の改革が進行している。新しい外国語教育を受けた学生では、この項目の評価が改善されていることを期待したい。

（2）学修による自己の変化に関する解析：態度・精神面

下記の 9 項目について、入学前と比較した自己の変化について調査した。

1. 協調性
2. 創造性
3. 意欲（やる気）
4. リーダーシップ
5. 他者を理解する力
6. チャレンジ精神
7. 知的面での自信
8. 社交面（人間関係）での自信
9. 自己理解

（評価段階）

- かなり向上した 少し向上した 変わらない
少し低下した かなり低下した わからない

「他者を理解する力」で 27.4% (H27 年度は 31.0%) の学生が「かなり向上した」と回答しており最も高い割合であった。続いて、「協調性」27.1% (H27 年度は 30.1%)、「意欲（やる気）」21.9% (H27 年度は 29.5%) であった。一方、「リーダーシップ」で「かなり向上した」と回答したのは、12.8% (H27 年度は 14.5%) で最も低かった。

「リーダーシップ」以外の 8 項目については、「かなり向上した」と「少し向上した」を合わせた回答率が 60% を超えており、自己に対して肯定的な評価を行っていた。一方、「リーダーシップ」については、肯定的な評価をした学生が低かった。学修による自己の変化に関する解析（態度・精神面）の結果も平成 27 年度と同じ傾向を示しており、これが本学卒業生の特性と言える

かもしれない。

（3）福山大学での学生生活にどれくらい満足していますか？

下記の7項目について調査した。

1. 共通教育（一般教養）の授業
2. 外国語の授業
3. 専門分野の授業
4. これからのキャリアに対する授業内容の有効性
5. 教職員による学生支援体制
6. 大学の中での学生同士の一体感
7. 大学での経験全般について

（評価段階）

- とても満足している 満足している 普通
不満である とても不満である わからない

「専門授業の授業」で70.3%（H27年度は67.5%）の学生が「とても満足している」および「満足している」に回答しており最も高い割合であった。続いて、「大学での経験全般について」61.4%（H27年度は72.3%）、「教職員による学生支援体制」58.0%（H27年度は57.0%）であった。福山大学での学生生活については全般として肯定的に捉えている学生の多いことが示された。また、教職員による学生支援体制については、平成27年度は「とても満足している」および「満足している」に回答した割合で第4位だったが、今年度は第3位に上昇した。教職員の取り組みの成果が現れていると考えられる。一方、外国語については、学修効果を十分に感じていない学生が多いことと同時に、授業に関する満足度の低いことが示された。授業満足度が低いことと、学修効果を感じていないことについては相関していると推測される。この点については上述したとおり、外国語教育改革の成果を待ちたい。

（4）福山大学での学び全体を通して、あなたの満足度を%で表現すれば、次のどれに当たりますか？

（評価段階）

- 100% 80% 60%
40% 20% 0%

「100%」と「80%」を併せて62%（平成27年度は68%）であった。また、90%以上の学生

が満足度 60%以上と回答した。この結果は、卒業生は福山大学での学びに比較的高い満足度を示していると考えられる。この結果についても、平成 27 年度とほぼ同じである。

（5）あなたは、もう一度福山大学で学ぶ機会が得られるとすれば、何を望みますか？

自由記載

200 以上の記載が寄せられた。平成 27 年度の記載数 108 から 2 倍以上に増加した。サークル活動への参加、専門性の向上、他分野へのチャレンジなど「学修意欲」にあふれた記載が多く見られた。また、大学に対する要望として「コンビニの充実」などの記載があった。自由記載の内容は、学生の率直な意見・感想であり、真摯に受け止めて大学の改革、改善につなげていく必要がある。

【総括】

平成 28 年度卒業の学生については、福山大学での学びにより自己の能力が向上したと判断しており、福山大学での学修についても概ね高い満足度を示していた。教員職員が取り組んだ教育改善の努力の結果であると考えられる。この結果は、平成 27 年度の結果と同様であった。今後、e ラーニングや ICT 教育などをさらに拡充し、学生満足度と学修成果の向上を目指していくことが大切である。解析結果でも記載したが、外国語教育については満足度、自己変化の評価とも低い値を示した。この点については、平成 28 年度から導入された外国語教育改革の成果を期待したい。

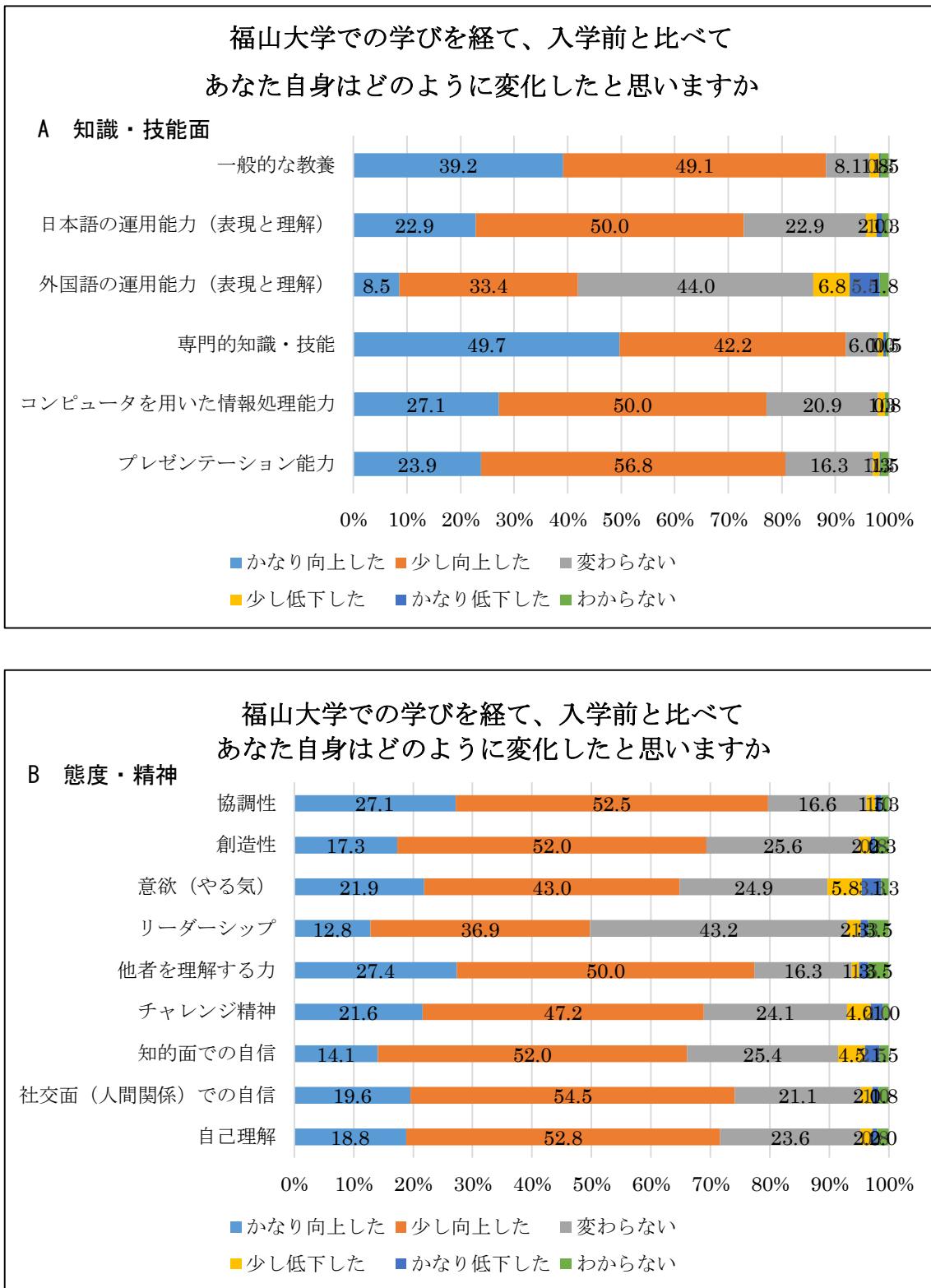
また、「コンビニの充実」など学生の厚生施設の充実を図っていくことも学生満足度の向上に重要であると思われる。

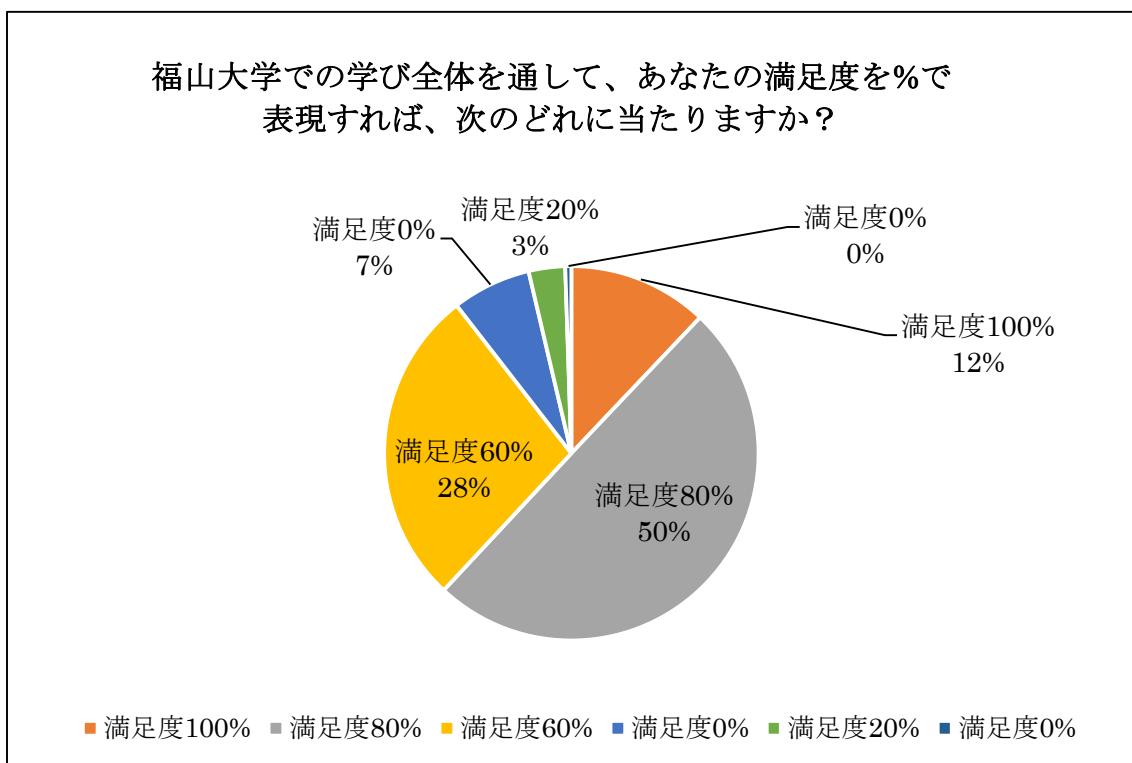
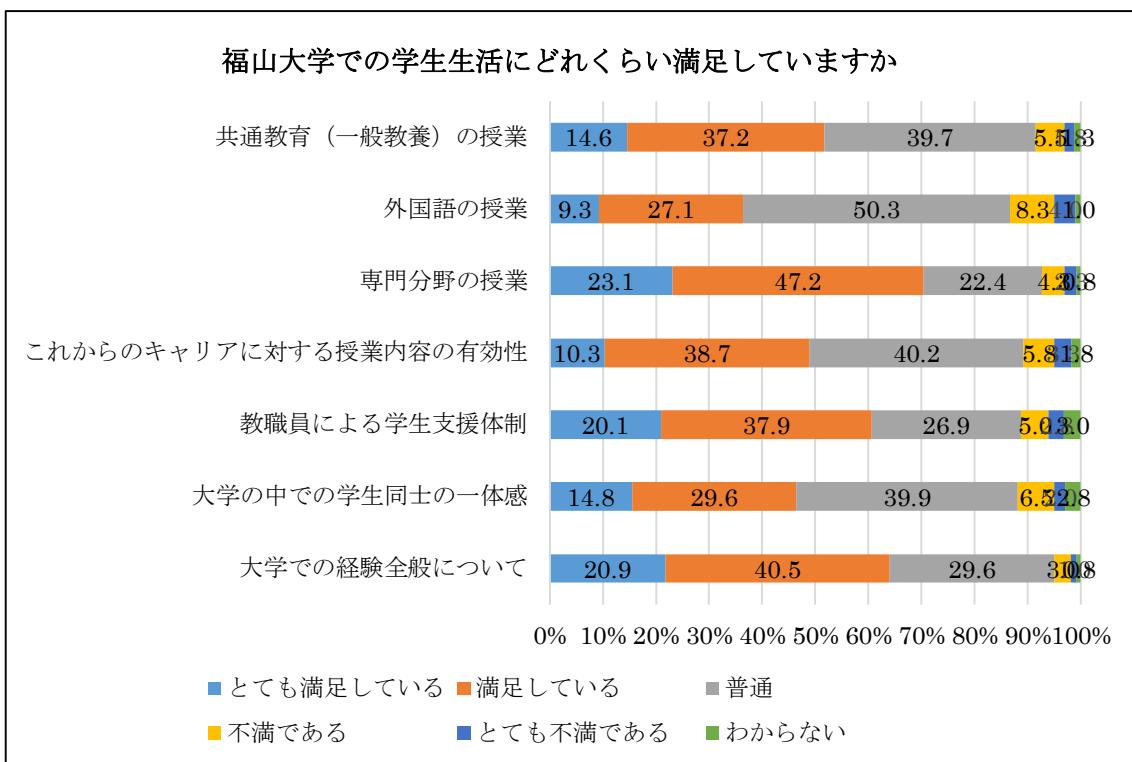
大学教育センター長：大塚 豊

大学教育センター教育開発部門長：田村 豊

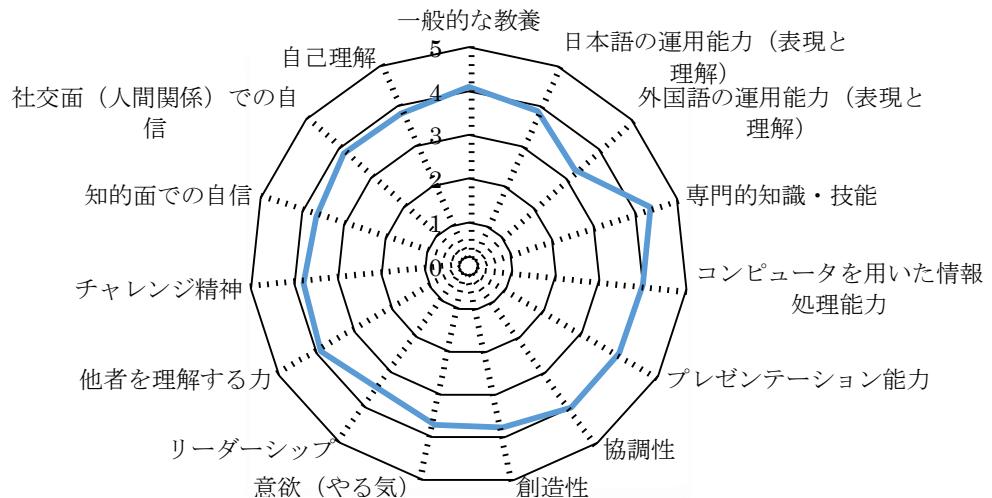
大学教育センター：日暮 美紀（データ集計・解析）

【解析データ】



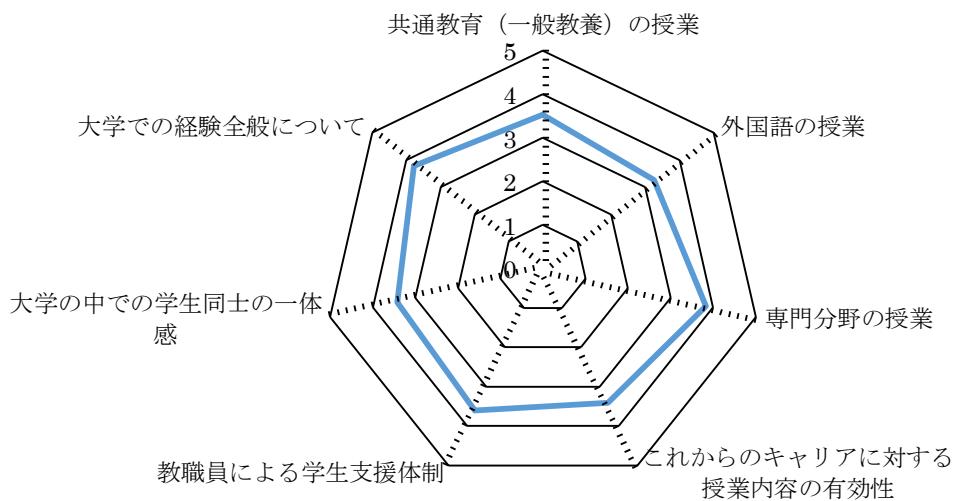


福山大学での学びを経て、入学前と比べてあなた自身は
どのように変化したと思いますか



平成 28 年度福山大学での学修を振り返るアンケート集計結果

福山大学での学生生活にどれくらい満足していますか



平成28年度福山大学での学修を振り返るアンケート集計結果